

成年向

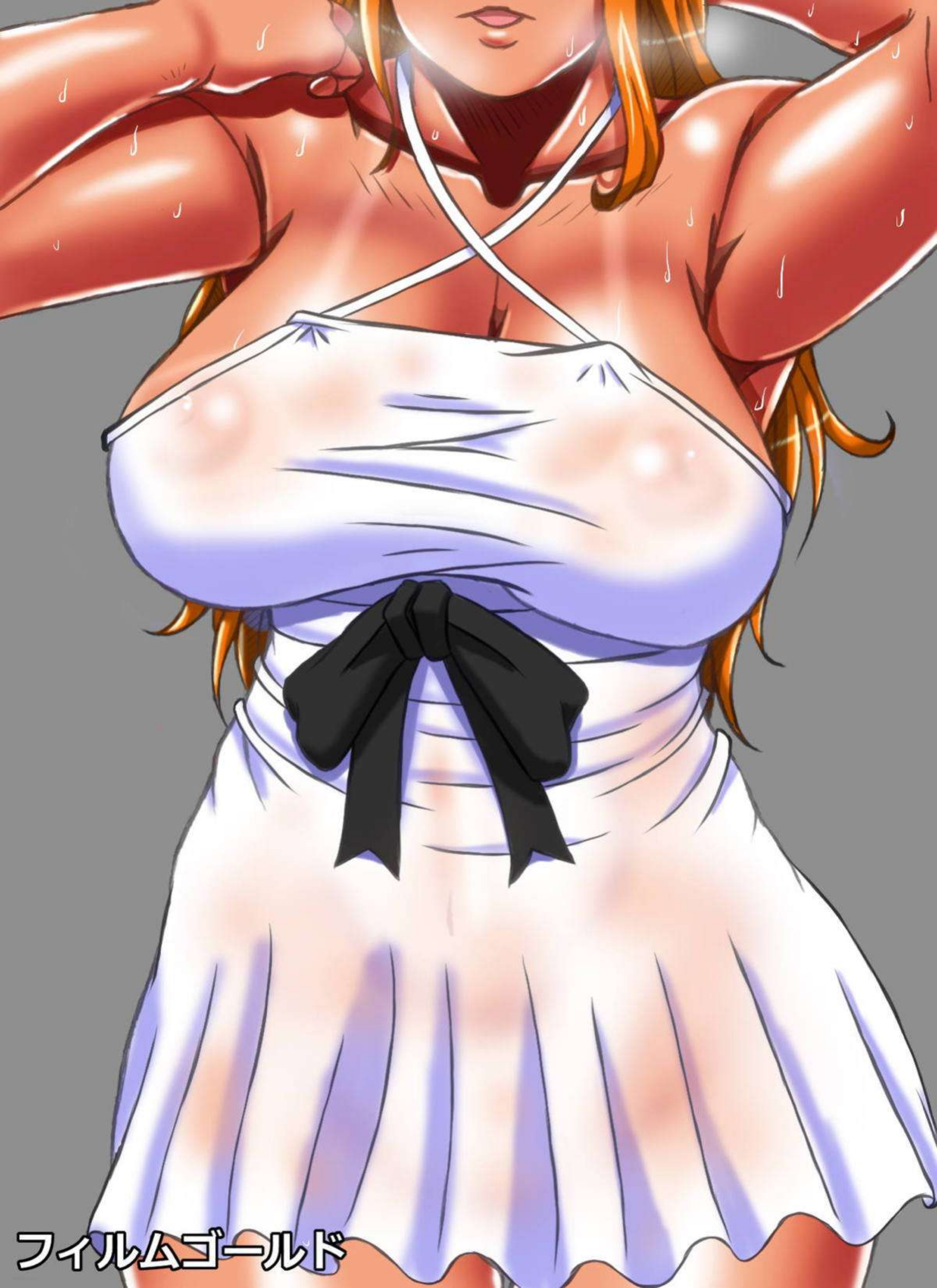
ワロピースCG集

ナミロビ

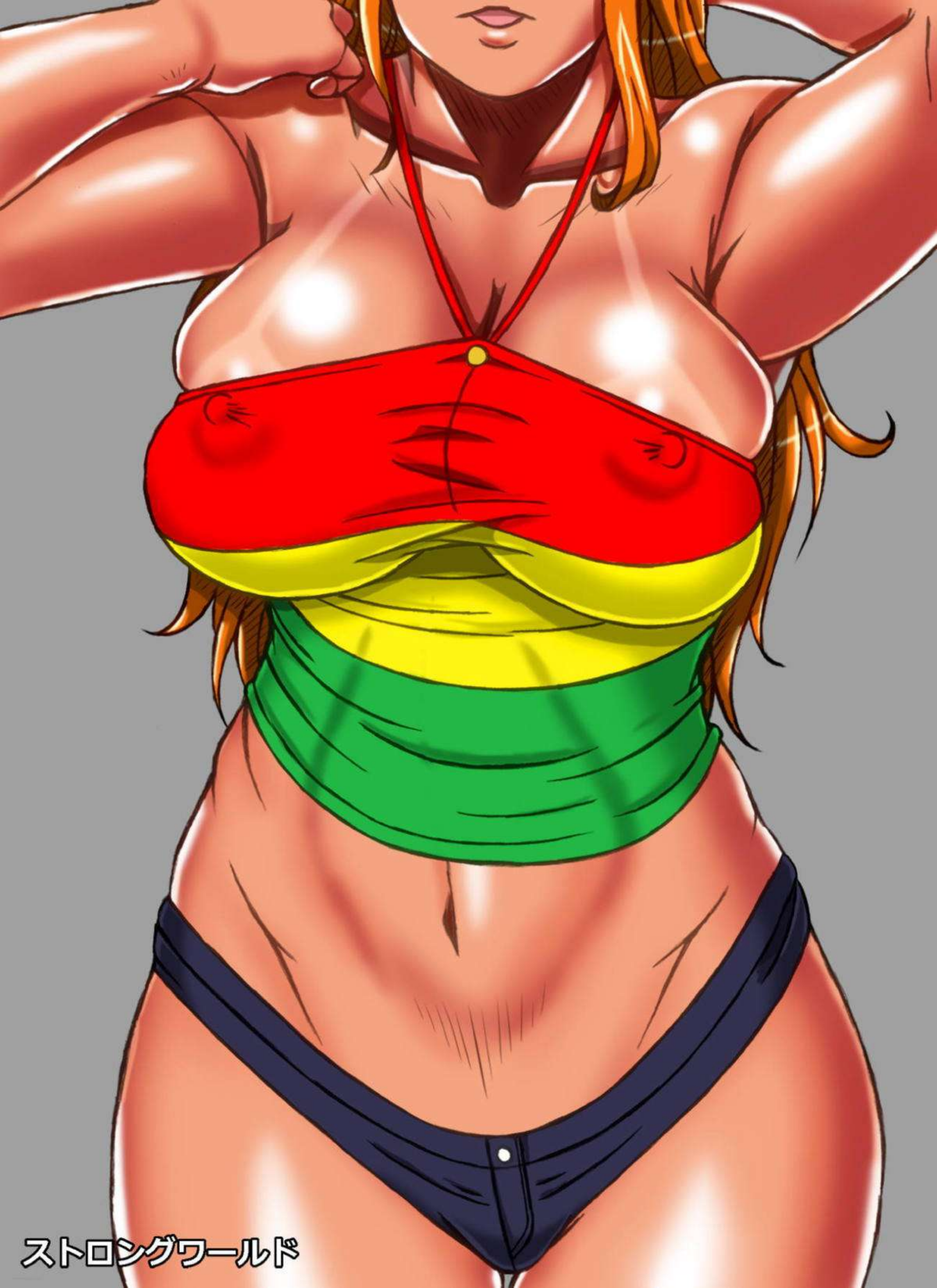
PAPEPOX2



フィルムゴールド



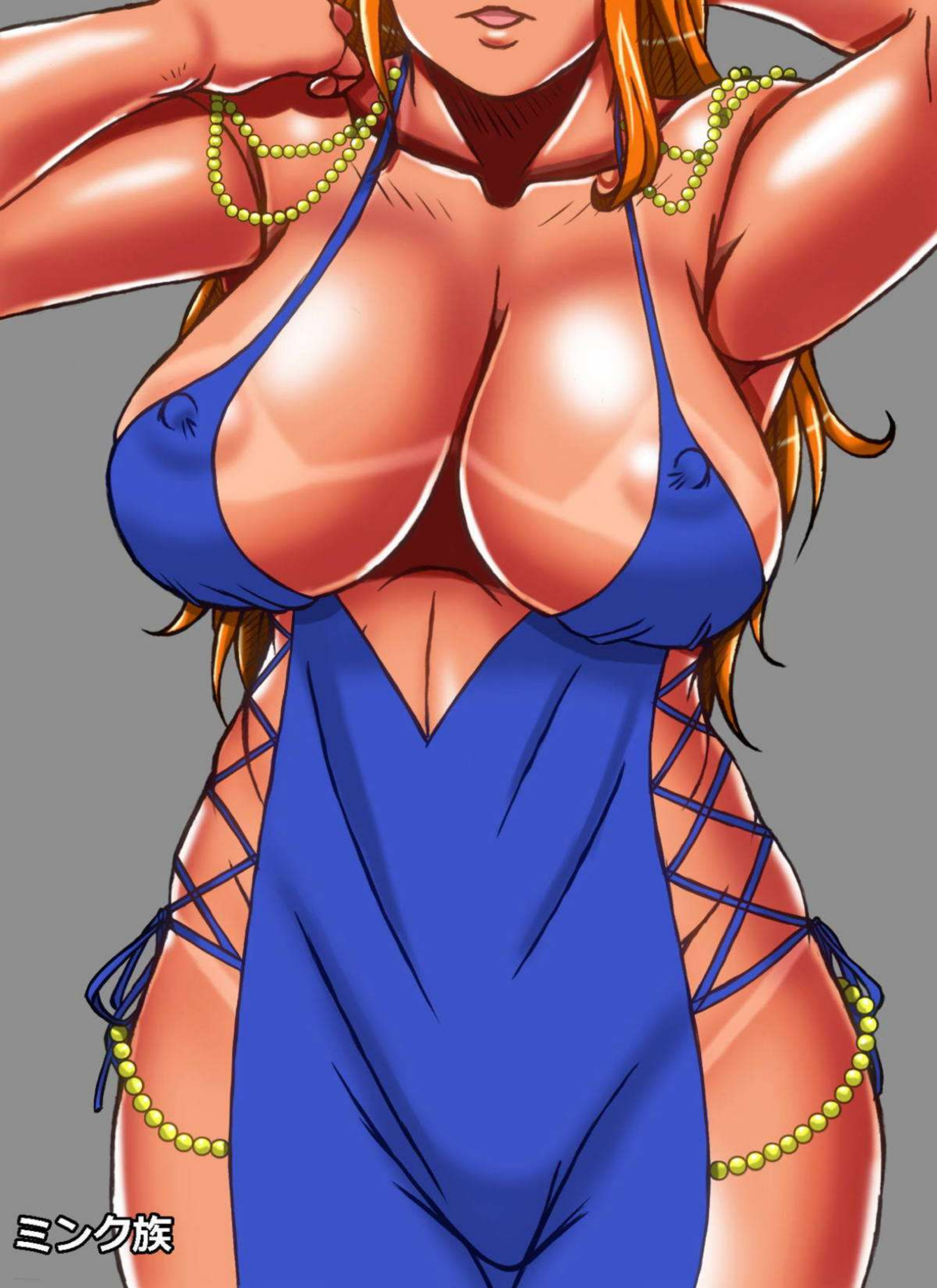
フィルムゴールド



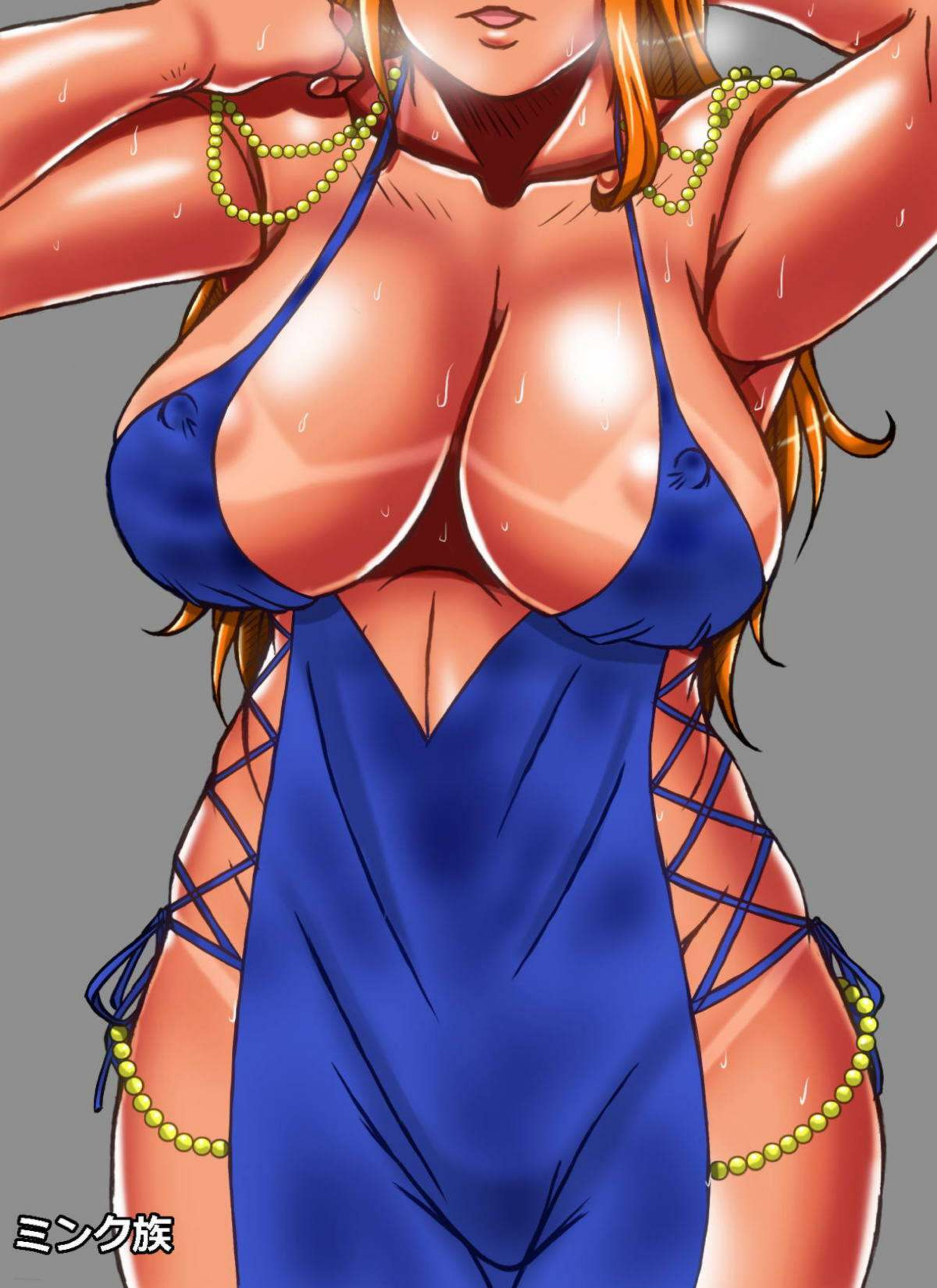
ストロングワールド



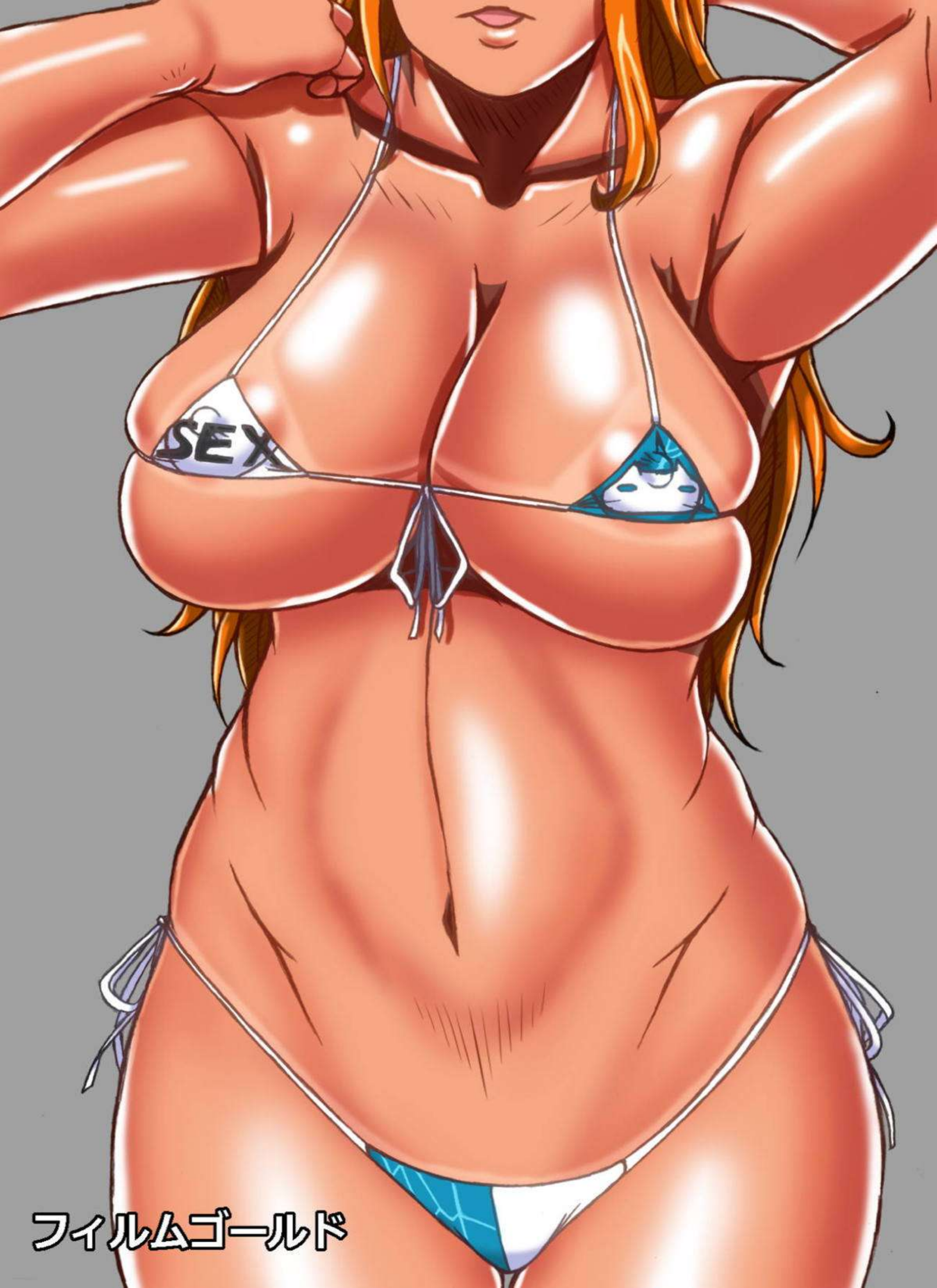
ストロングワールド



ミンク族



ミンク族

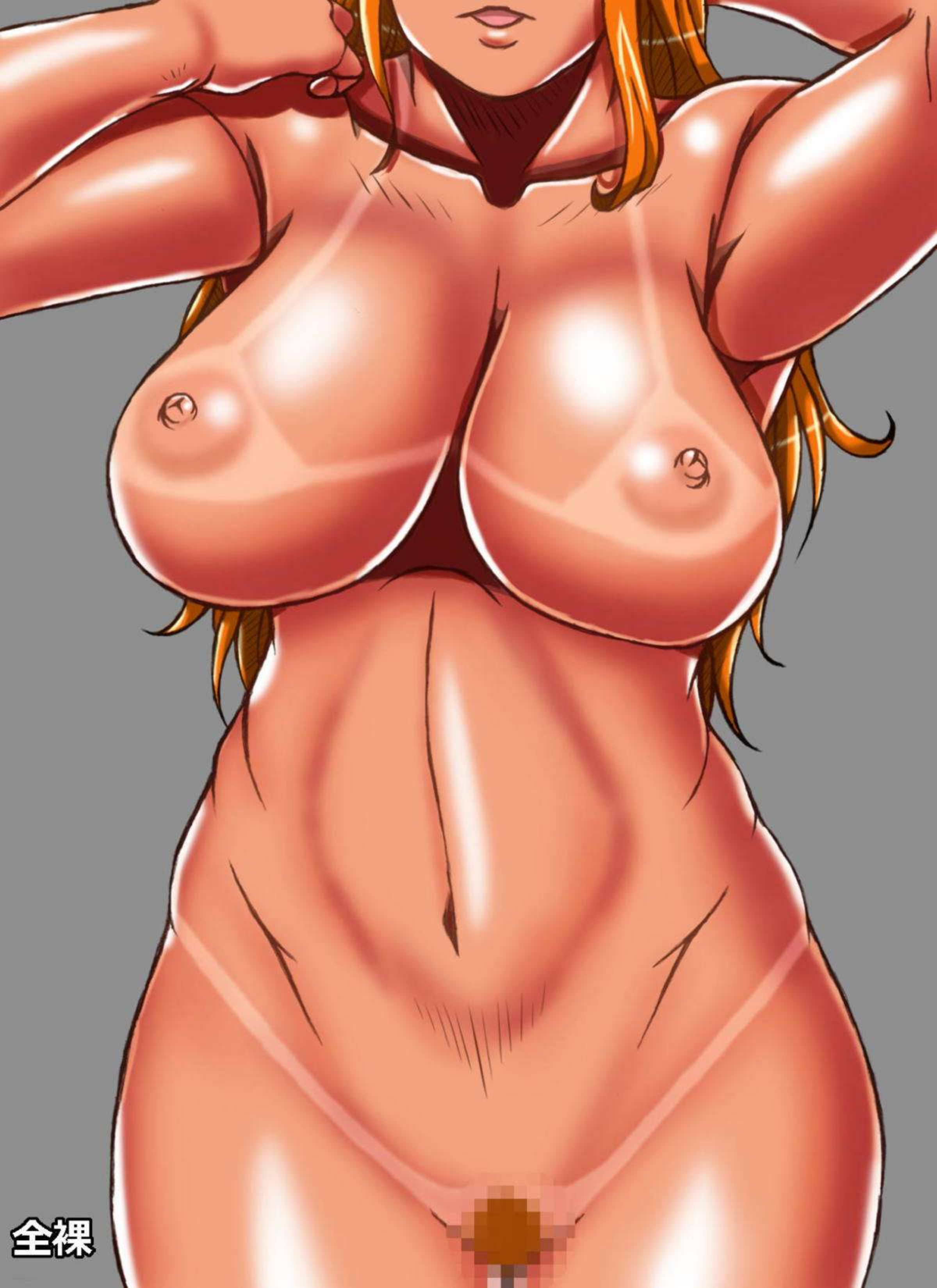


フィルムゴールド

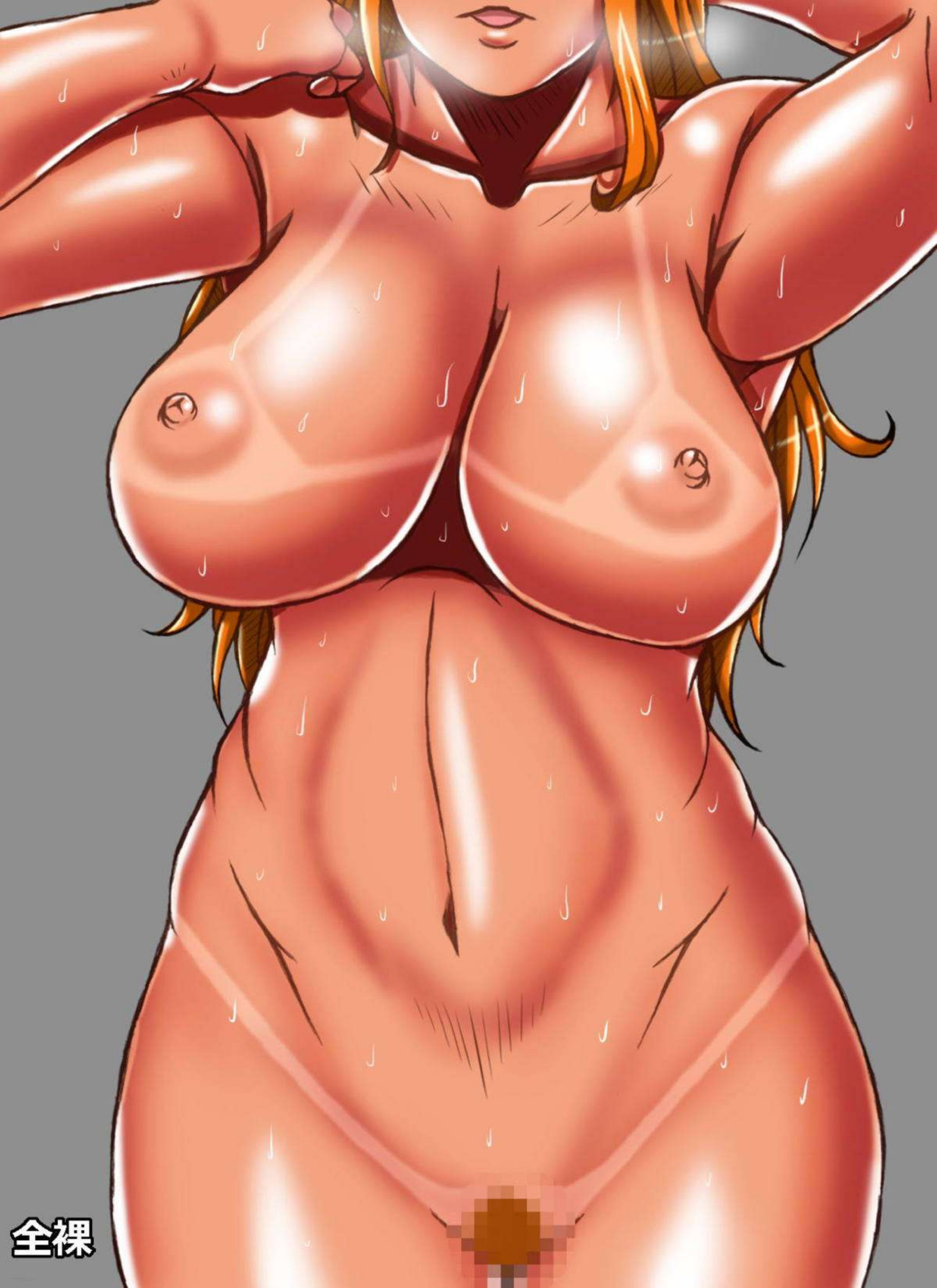




フィルムゴールド



全裸



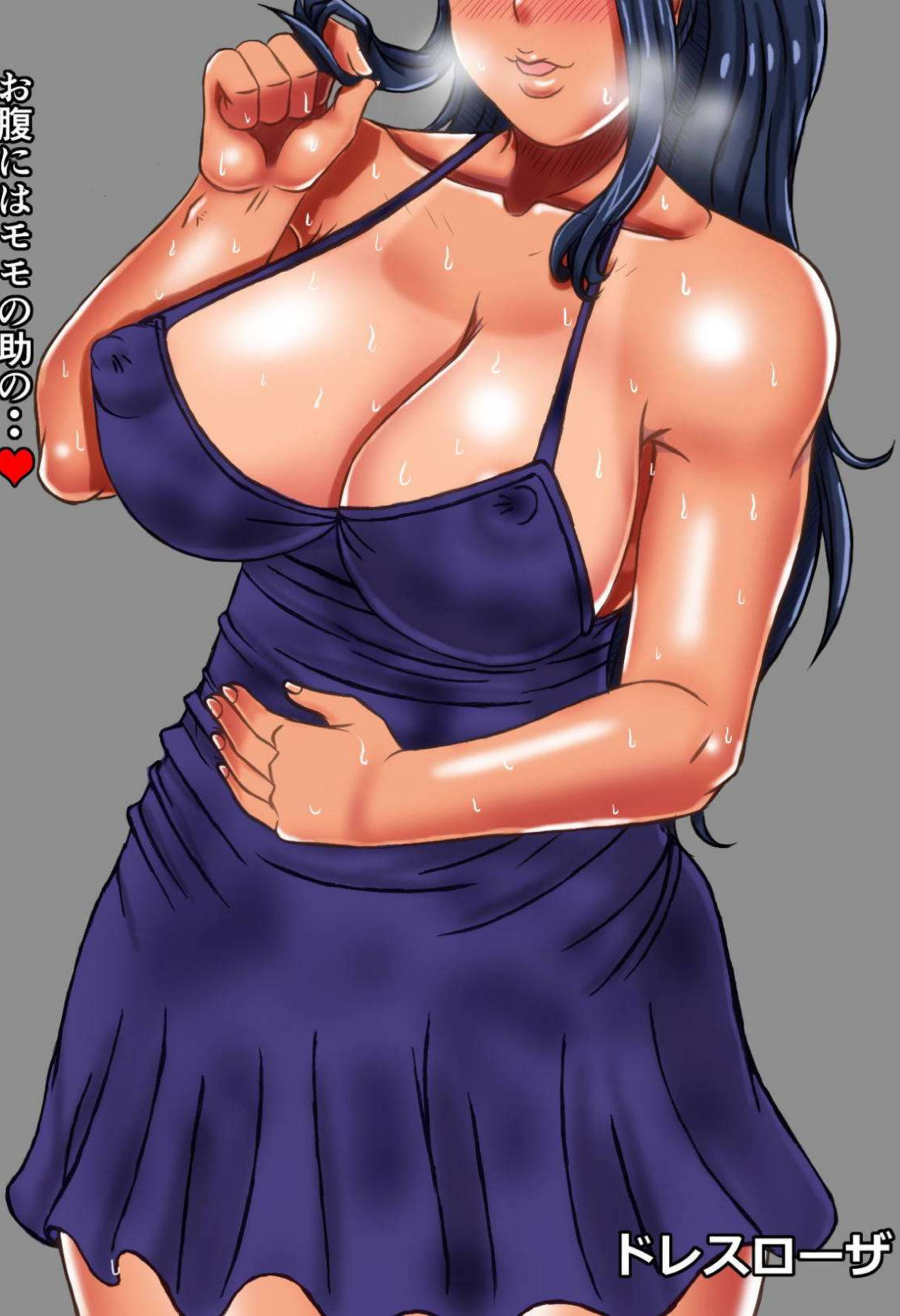
全裸

お腹にはモモの助の...  
♥



ドレスローザ

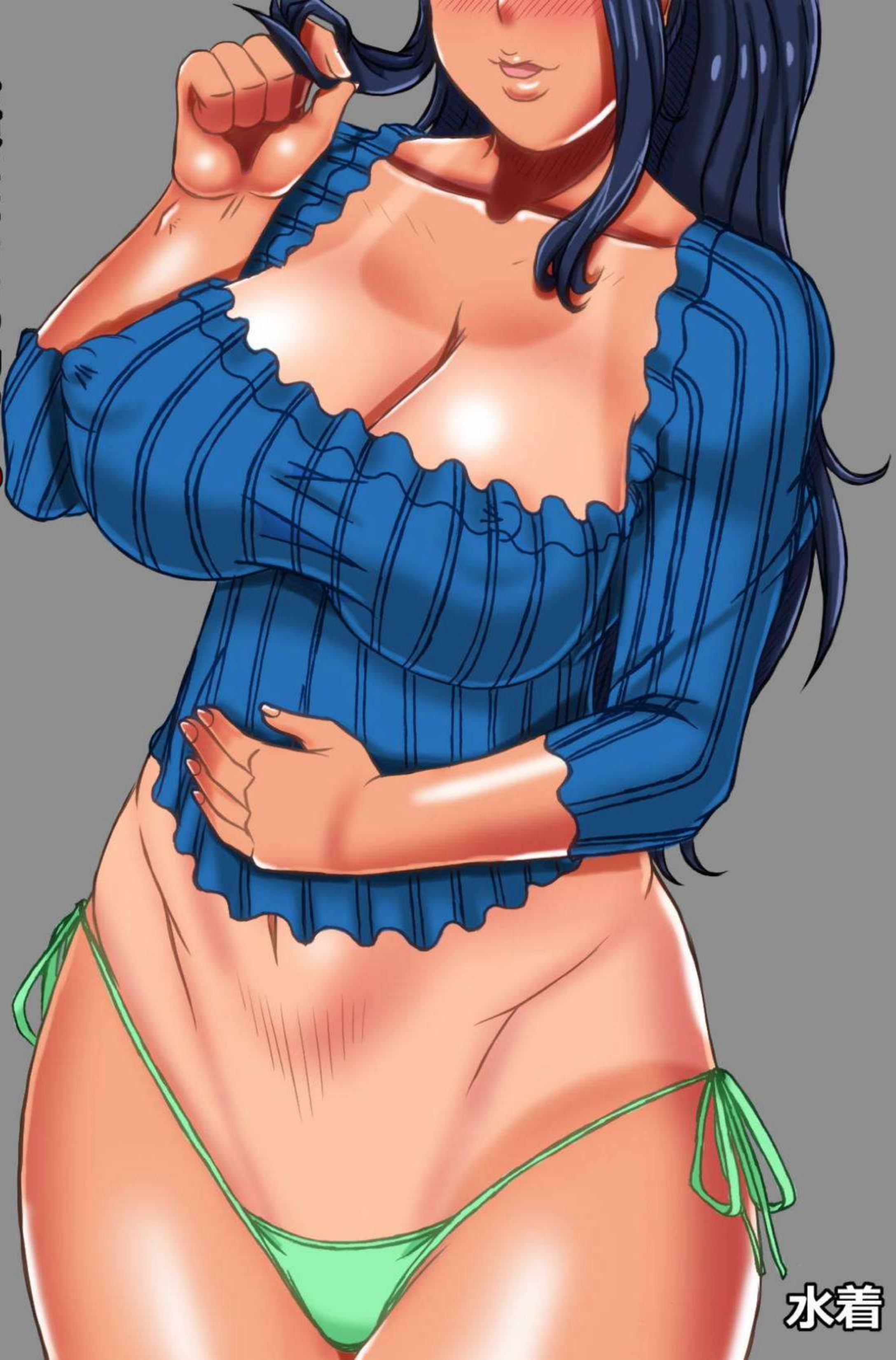
お腹にはモモの助の...  
♥



ドレスローザ

お腹にはモモの助の...  
♥

水着



お腹にはモモの助の...  
♥

水着



お腹にはモモの助の...  
♥



2年前のコス



お腹にはモモの助の...  
♥



2年前のコス

お腹にはモモの助の...  
♥

モモの助  
LOVE

妊娠中

コート+全裸



お腹にはモモの助の...  
♥

モモの助  
LOVE

妊娠中

コート+全裸



お腹にはモモの助の…❤



コート+全裸

お腹にはモモの助の...  
♥



コート+全裸

お腹にはモモの助の...  
♥

全裸



お腹にはモモの助の...❤

全裸



VIP

ここは金持ちが集まる  
VIP  
ルーム

今夜もナミはお金稼ぎ♡

6600  
万  
ドル

リリース♡

—  
晩

コスプレ





VIP

ここは金持ちが集まる  
VIP  
ルーム

今夜もナミはお金稼ぎ♡

6600  
万  
ペ

リ  
ー  
ト  
よ  
♡

—  
晩

コスプレ

VIP

ここは金持ちが集まる  
VIP  
ルーム

今夜もナミはお金稼ぎ♡

6600  
万  
ペ

リ  
ー  
ト  
よ  
♡

—  
晩

コスプレ

VIP

VIP  
ルーム  
ここは金持ちが集まる

今夜もナミはお金稼ぎ♡

6600  
万  
ドル

リリース  
♡

—  
晩

コスプレ

VIP

VIP  
ルーム  
ここは金持ちが集まる

今夜もナミはお金稼ぎ♡

6600  
万  
ドル

リ  
ー  
ト  
♡

—  
晩

コスプレ

二年前のビキニがあったんだけど  
胸も大きくなったから大丈夫かなあって思って

着てみたんだけど  
やっぱりちょっときついわね  
ナンパしてお金持ってそうなおじさんに  
高く売りつけるか

「ねえそのおじさん  
私の着ているこの水着  
これぐらいで買わない？」

「え？  
高いって？  
もちろんだた買ってくれとは言わないわ  
サービスしてあげるから」

「えい？  
交渉成立ね  
じゃあここじゃああれだし  
人気のない向こう側に行こうか」

あん♡

はあ♡

アプ♡

はあ♡

もう♡

アプ...♡

アプ♡

アプ!

終

古着

二年前のビキニがあったんだけど  
胸も大きくなったから大丈夫かなあって思って

着てみたんだけど  
やっぱりちよつときついわね  
ナンパしてお金持ってそうなおじさんに  
高く売りつけるか

「ねえそのおじさん  
私の着ているこの水着  
これぐらいで買わない？」

「え？  
高いって？  
もちろんだた買ってくれとは言わないわ  
サービスしてあげるから」

「えい？  
交渉成立ね  
じゃあここじゃああれだし  
人気のない向こう側に行こうか」

あん♡

はあ♡

アプ♡

はあ♡

もう♡

グブ♡...♡

アプ♡

クアツ♡

終

古着

「あら？ブルック？  
どこに行つたの？」

ムッザ

「ふふふ…」

「今日のナミさんのパンティは何色かな？」

「ハーパンだど…？！」

「何見てんのよー！」

グ  
ミ  
タ  
レ  
ジ  
タ  
ン

アウチッ！



「さっきまでいたのに  
どこ行ったのかしら？」

「今日こそはパンティイの色は何色かな？」

「パ・・・パ・・・パ・・・？」

「ふふふ：  
ナミさん  
私には肉：  
私を誘っているようですが」

「いい加減にしなさい！」

「グニタミタミ」

「アウチッ！」

終

アソコも...

「ウソップ〜  
いるの〜？」

「…なんだ寝てるのね」

「…鼻が大きい人はアソコも大きいって言うけど  
もしかしてウソップも結構大きい？  
こっそり見るのもちよつとねえ…」

じいん♡

じいん♡

ズ〜♡

ズ〜♡

「ん〜」

挟んでみたけど

ウソップのアソコってこれぐらいかしら〜？」

# アソコの大きさ

フワフワ...

（んん…なんか柔らかいのが…  
息苦しい…）

はあ♡

はあ♡

はあ♡

「…寝言？」

起きないの…？

ウソップのアソコ

確認しちやおうかな？

なんか興奮してきちゃったし

ちよつとだけならいいよね？」

じゅわ♡

「ヤバッ… そうだ！  
ウソップ起きなさい！  
私がこんなに有料サービスで起こしているのよ  
早く起きないとどんどん値上げるわよ！」

「ああ…

おっぱいに包まれてる感じだ…  
いい夢だ…」

じゅわ♡

じゅわ♡

んぐ…

ぽわ♡

ズ♡

ズ♡

「はあはあ」

「ふふふふふふふふふふ」

「おわあああああああああああああああああああ」

「おっおっ！  
何やってんだよ！」

「あなたの鼻をしごいていたら  
なんだか変な気分になっちゃって」

「はあ？」

「意味わかんねーよ！  
それに離れるよ  
マズイだろ？」

「ガチャ」

「ズンズン」

「ズンズン」

「あら？」

「やっと起きたのね  
アソコは反応しているのに」

「んふ」

「んあ」

「ズンズン」

「ズンズン」

「ズンズン」

「私達だけの秘密に  
していれば大丈夫だって」

「オレ達はそういう関係じゃないだろ?!」

「今回だけだからいいじゃない  
ノってきたんだから  
途中でやめられないわ  
お互いスッキリしましょ!」

「おーい  
メシだぞおまえ……ら……?」

「ガチャ」

「そんな腰を動かすな……!  
やば……!  
ナミ離れる……!」

ん♡

ズン♡

ズン♡

「はあはあ  
いいわよ♡  
そのまま中に吐いて♡  
頂戴♡」

「あら?  
もう限界?  
待って私ももうすぐだから……!」

んふ♡

んあ♡

「馬鹿ダメだっつて!」

ズン♡

ズン♡

ズン♡

「……!」

「んん♡  
ウソツップの種が入ってきてるわ♡」

「種とか言うのやめるよ  
もう離れる。」

「ツプ♡」

「はあ」

「ねえ  
もう一回お願い♡」

「そろそろメシの時間だろ？  
誰かが入ってきてきたらどうするんだよ」

「はあ」

「大丈夫♡  
ちゃんと鍵掛けているから  
ほらまたウソツップのが中で大きくなってる♡」

「お前が腰を動かさずからだろ」

「はあ」

「ツプ♡」

「このまま続けるわよ  
今回は特別に無料で好きなだけ  
中に出していいからね♡」

「えらいものを見てしまった…。」

「グ♡」

「グ♡」

終

「ロビン！  
若いのがこんなにいるわよ♡」

「ホントね♡」

「より取り見取りだわ♡」

「色んなサイズのおち〇ち〇が  
見れて  
ここはパラダイスだわ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「ふふふ♡」

「私達も裸になって  
彼らと一緒に遊ぶわよ♡」

ナミ達が訪れた島は  
ダンコン島  
その名の通り男しかいない島  
ルファイら男達は上陸するのを拒否したが  
ナミとロビンは男日照りの為  
強引に降り立った

海では若い男達が  
全裸で泳いでいた

「あん♡」

「ん♡」

「ん♡」

「ん♡」

# 男日照り

「わっ!」  
「女だ?!」

「ホントだ?!」

「え?!」

「はあ♡」

「びゅーん」

「やだっ! 触ってんのよ♡」

「すげえおっぱい」

「はあ♡」

「父ちゃんが  
女のここにチ○コ入れると  
すごく気持ちいいって言うたから  
気になって...」

「ほんとね  
こっちはららっしゅら  
胸触らせてあげるわ♡」

「ぐろ...」

「キミ達  
お姉さんも混ぜて♡」

「見てロビン  
勃起してるじゃなら  
恥ずかしくて手で隠して  
可愛い♡」

「あん♡」

「ん♡」

「ん♡」

「ん♡」

「じゃあ実践してみる?」

「ん♡」



んん  
んん

「あらあら  
ナマッたら  
もう始めちゃって」

「あう…！  
お姉さんの中  
すくく締め付けると…」

パ  
パ  
パ

「みんな初めてなのかな？  
ならお姉さん達が貰ってあげるわ  
中に出してOKよ」

んふ  
♡

「ええいいわ  
あら中々大きいわね」

お姉さん

「僕は口で…」

「ああ  
この感じ久しぶりだわ」

ブ  
ン

んん  
♡

ん  
♡

パ  
パ  
パ

「うわー！  
お尻や」

「うう我慢できねー」

んんん

グブグブ...

「あらあら  
ナマッたら  
もう始めちゃって」

「あう...！  
お姉さんの中  
すくく締め付けるよ...」

ふー♡

「ああ♡  
この感じ久しぶりだわ」

「みんな初めてなのかな？  
ならお姉さん達が貰ってあげるわ  
中だ出してOKよ」

ふー♡

「僕は回で...」

「ええいいわ♡  
あら中々大きいわね」

びびん

グブ...

「うわー！  
ちびちび」

「もう我慢できねー」

ふー♡

びびん

びびん

「ほら  
お姉さんごっちもー」

はあ♡

「はあはあ」

「ふふふ…  
遠慮しないで  
どンドン出しちゃって♡」

ブー♡

あん♡

「ああ♡  
いいわ♡」

「若いのは元気が良くて♡」

ブー♡

んー♡

ブルン♡

ブルン♡

ブー♡

「ああ：  
お姉さんの中  
すぐく締まるよ…」

はあ♡

遠慮がちだった  
若い男達も  
女を知ったらみんな  
段々積極的になってきたわ♡

私達は思う存分楽しんだ

ブー♡

ブー♡

「ほら  
お姉さんさっさとちもー」

ん…♡

「はあはあ」

「ふふふ…♡  
遠慮しないで  
どンドン出しちゃって♡」

ふー♡

「ああ♡  
いいわ♡  
若いのは元気が良くて♡」

じっつ!

エロ…♡

「ああ…  
お姉さんの中  
すぐく締まるよ…♡」

ふー♡

遠慮がちだった  
若い男達も  
女を知ったらみんな  
段々積極的になってきたわ♡

私達は思う存分楽しんだ

グッ

グッ

終

モモノスケが来てから  
ロビンとナマはあいらつこの世話を  
積極的に行っている

でも毎日女達と風呂に入ることにはねえのだ…  
ナマとロビンの喘ぎ声が聞こえてきて  
すごく気になるわ…

うん♡

「はあ♡  
いいお風呂だったわね♡」

「気持ちよかったでいじめる  
続きはベッドでやるでいじめる」

お世話

「あらあら♡  
じゃあナミも呼んでこなきゃね♡」

「お・おい  
ロビン」

「あら何ウソップ?  
覗いてたの?  
Hねえ♡」

「グ・イ・ン♡」

「ち・ちげえよ!  
なあ?  
たまには男同士で風呂に入らねえか?  
色々聞きたいこともあるし」

「嫌でいじめる」

「ムキー!!」

夜中に小便して部屋に戻る途中、  
女達の部屋のドアが少し開いていることに気付いた

毎日喘ぎ声が聞こえているが  
マジでやってんのか？  
俺は気になって覗いて見ると…

そこには今まさにロビンとモモノスケが  
SOXをしている最中だった

隣には疲れ果てていたナミが横たわっていた

「マジかよ…」

あ♡

ああ♡

いいわ♡

その夜



「アイ♡  
おマ○コが壊れるぐらいに  
もっとう乱暴にしてえ♡」

「ああ♡」

「いいわ♡」

普段クールなロビンが  
この時はモモノスケに突かれる度に  
乱れまくっていた

「チビなくせに立派なもん  
持っていてやがって…」

もう終盤なのかラストスパートに入ったモモノスケは  
さらに激しく腰を叩きつけ  
ロビンの喘ぎ声が一段と高くなった

「ああ♡  
ダメ♡  
もう…♡」

「イクっ♡  
ああああ♡♡♡」





思わず最後まで見てしまった。

はー♡

はー♡

モノノスケはがっちりと腰を掴んで最後の一滴までロビンのマ○コにザーメンを注ぎ込んでいた

「ああ♡入ってきてる♡」

「はあはあ気持ちよかったでいっせよ」

「やべえもん見ちゃったな。」

俺はばれない内に部屋に戻った

ビュン

ビュン

ビュン

ビュン

ビュン

終



「メリークリスマス♡」

クリスマス  
ロビンと今夜すごす男を  
シヨッピングがてら探していると

ちょうどロビンと好みが合致した  
男を見つけたの  
さっそくナンパ♡

「好きな方を選んでね♡」

取り合うのもイヤだから  
3人で過ごすことにしたわ

「パイズリは得意よ♡  
天国に連れて行ってあげる♡」

クリスマスパーティー

「メリークリスマス♡」

「好きな方を選んでね♡」

クリスマス  
ロビンと今夜すごす男を  
シヨッピングがてら探していると

ちょうどロビンと好みが合致した  
男を見つけたの  
さっそくナンパ♡

取り合うのもイヤだから  
3人で過ごすことにしたわ

じゅわ♡

どっぴ♡

「パイズリは得意よ♡  
天国に連れて行ってあげる♡」

どっぴ♡

クリスマスパーティー

「どっちか選べないって？  
じゃあ二人でしてあげる。」

「どお？  
気持ちいい？  
二人のおっぱいは。」

「やだ  
奥に当たって  
壊れちゃう。」

「あ。」

「こんなの初めてよ。」

「もっとお。」

「今回のクリスマス  
の相手は  
当たりだったわ。  
来年も男を呼んで  
クリスマスパーティーを  
開きましょう。」

「まだ出来るわよね。」

「ほんと萎えないわね  
おち○ポがカチカチだわ。」

「イイ  
激しすぎる  
もっと乱暴にして  
気持ちイイの。」

終

「どっちか選べないって？  
じゃあ二人でしてあげる」

ドブッ!

「どお?  
気持ちいい?  
二人のおっぱいは」

「イイ  
激しすぎる  
もっと乱暴にして  
気持ちイイの」

「ほんと萎えないわね  
おチ○ポがカチカチだわ」

今回のクリスマス  
の相手は  
当たりだったわ  
来年も男を呼んで  
クリスマスパーティーを  
開きましょう

終

もっとお

「こんなの初めてよ」

「やだ  
奥に当たって  
壊れちゃう」

あ

イイ

パン  
ブルン

「まだ出来るわよね」

ブッ...

アチ

アチ

ああ

ん

あう

ん

今日はクリスマス  
彼女もいないし特に何も無い日

仕事が終わりに家に帰る途中  
最近島に来ている女海賊にナンパされた

僕は女性経験がないし  
なんか怖いから逃げようとしたんだけど  
だいたい酔っているようで人の話を聞いておらず  
無理やりホテルに連れ込まれてしまった

「なんだか暑いわね。」

部屋に入るなり  
女海賊はその場で座り込んだ

「ねえ逃げないで  
こっちにおいでよ。」

僕がまごまごしていると  
女海賊は股を開いて誘ってる

「誘ってんのよ♡  
スポンが膨らんでいるじゃない  
ほら早く下着脱がせて。」

「はあはあ……」

下着を脱がして女性の生マ○コを見た僕は  
思わず自分のモノをしごきだしてしまった

「自分のおち○ぼ擦ってないで  
私のを弄ってよ♡  
キミ初めてなの?」

「は……はい……」

「じゃあお姉さんが  
手取り足取り教えてあげるわ♡」

そう言って自分のマ○コを  
弄り始め喘ぎ出した所で  
僕はイってしまった

「う……う……」

「あら?  
一人でイっちゃったの?  
せっかちなねえ♡」

「はあはあ……」

下着を脱がして女性の生マ○コを見た僕は  
思わず自分のモノをしごきだしてしまった

「自分のおち○ぼ擦ってないで  
私のを弄ってよ♥  
キミ初めてなの?」

「は……はい……」

「じゃあお姉さんが  
手取り足取り教えてあげるわ♥」

そう言って自分のマ○コを  
弄り始め喘ぎ出した所で  
僕はイってしまった

「う……う……」

「あら?  
一人でイっちゃったの?  
せっかちなねえ♥」



その後  
女の体を知った僕は  
サルのようにやりまくった

はー♡

はー♡

はー♡

しまいには女海賊は

「もう許して…」

と懇願したけど  
それでも僕はやめなかった

後から来たもう一人の女海賊も  
参加して僕は素晴らしいクリスマスを過ごした

終

その後  
女の体を知った僕は  
サルのようにやりまくった

はー♡

はー♡

はー♡

「しまいには女海賊は

もう許して…」

と懇願したけど  
それでも僕はやめなかった

後から来たもう一人の女海賊も  
参加して僕は素晴らしいクリスマスを過ごした

終

「カジノに行く為に  
ドレス買ったの♡  
どお?  
似合う?  
ウソップ?」

「なんで俺の所に来るんだよ...」

「だってみんな出かけちゃって  
あんたしかいないから  
ほら今日はこの下着着てるの♡」

「み・見せんなって!」

「帰ってきたら  
このドレスでやるうね♡」

「ささっ...  
おっおっおっおっ...」

カジノ

沢山カジノで稼いだ後は  
ハンサムな男達を呼んでどんちゃん騒ぎ  
酔った勢いで朝までヤっちゃうの♡

はあ♡

「生でいいんすか?」

はあ♡

「構わないわ  
早く入れてよ♡  
あなた達もやりたいでしょ?」

はあ♡

はあ♡

「よっしゃあー!!  
いただきまーす!!」

「姐さん  
もう出ねえっすよ」

持久力が足りないのが  
ちよつと不満かな

この匂い……♡  
堪らないわ♡

「おあ……♡」

「グープ……♡」

「だらしないわね♡  
私はまだ満足してないわ  
早くおっ立てていれなさいよ♡」

「お金がなくなったら  
またカジノで稼げばいいし  
ほんとにカジノって最高♡」

カジノでまたナミがスったおかげで  
体で稼ぐことになった私達

ああ…  
いいよロビンちゃん  
おじさんの太くて唾えがいがあがるだろ？  
若いには負けないぞい

んん♡

グッボ♡

今日のお相手はSっ気のあるおじさま  
ナミは宙吊りにされ  
私は強引に太いモノを口にねじ込まれたの

どうせなら若いのがよかったんだけど  
お客はおじさまばかり：  
お金持ち限定だから仕方ないんだけど

ん♡

ナミちゃんはこの後  
たっぷり下の口に入れてあげるからね

グッボ♡

グッボ♡

んぐ♡

# 夜のお仕事

カジノでまたナミがスったおかげで  
体で稼ぐことになった私達

ああ…  
いいよロビンちゃん  
おじさんの太くて唾えがいが  
あるだろ？  
若いには負けないぞい

どうせなら若いのがよかつたんだけど  
お客はおじさまばかり：  
お金持ち限定だから仕方ないんだけど

今日のお相手はSっ気のあるおじさま  
ナミは宙吊りにされ  
私は強引に太いモノを口にねじ込まれたの

んぐう

ナミちゃんはこの後  
たっぷり下の口に入れてあげるからね

# 夜のお仕事

仕事なので孕んだら稼げなくなっちゃうから  
お客さんにはゴムを着用させることにしているんだけど

困ったことだ  
このおじさんは頑なに拒否したわ

あう♡

アプ♡

アプ♡

ブ♡

嫌!

ブ♡

ブ♡

「ちょっと生はやめてよ!  
んあ♡」

「多めに払っているんだから  
いいじゃないか  
大丈夫イク時は外にだすから」

「ダメったら!」

ああ♡

ブ♡

ブ♡

「おいしいぞ!  
ロビンちゃんのおマ○コ  
キツキツで!」

ブ♡

あ♡

「ダメです!  
おじさま!」

ブ♡

ブ♡

ダメエ♡

あん♡

「ダメってことは  
いいってことだね」

ブ♡

ブ♡





このお客様は何度も私達の中に出て満足して帰って行ったわ

終

ピュン

あああ  
おじいちゃん...

はあ

ピュン

うう...!!  
孕め孕め!

ピュン

ピュン!

はあ

ピュン!

はあ

ピュン

ピュン



ああ...

あああ

ピュン

ピュン

ピュン

おおお!  
出すぞ出してやるぞ!

いやああ!  
中はだめええ!

ピュン

ピュン...

ピュン

ピュン

オラの島に女海賊がやってきた  
有名な麦わら一味の女達だ  
噂では小さい島を狙って男漁りをしてるさ...

カモーン♡

「皮被っているの多いのね♡  
そんなに恥ずかしがらなくても  
可愛くていいじゃない♡」

だが女達は若いやつしか入りたくない  
きたもんだ  
みんなはがっかりして戻っていったが  
オラは無性に女の裸が見たくて  
裏側からこっそり覗くことにした

女達は混浴温泉のある宿に泊まると聞き  
男共は殺到した

「うちの描ってらるじやなら♡  
そんな所に立ってならで  
こっちはららっしやなら♡」

混浴風呂

「ほら次は誰がヌイて欲しいのかしら？遠慮しないでいいわよ。」

カモーン

「ほんとによく出るわね。すごい量。」

オラはてっきり若いのが女の裸をガン見ながら一緒に温泉に浸かって会話しているのと想像していたのだが、実際は女達が男共の精液を手や口で搾り取っていた。羨ましいオラも入りたかった。

「やっぱりおっさんより粘っこい若いザーメンの方がいいわね。」

女達は男達に体中ザーメンをぶっかけられていてそれがすごくいやらしく見えてとても興奮した。

入れ墨の女は  
一人一人相手にするのが  
めんどくさくなくなったのか  
自分の体を使ってザーメンを絞り取ってただ

そんなに  
おっぱい気持ちいいよ

ズニ

ズニ

ズニ

ズニ

興奮しちゃって  
カワイイ

お姉さん

凄くイイよ！  
柔らかくて！

ズニ

君達反応がいらねえ  
可愛くていらねえ

ズニ

ズニ

オラは見てるだけじゃ  
我慢できずオナ○ニーを始めた

入れ墨の女は  
一人一人相手にするのが  
めんどくさくなくなったのか  
自分の体を使ってザーメンを絞り取ってただ

ビュン

そんなに

おっぱいを握りもちろさるさる

ビュン

ビュン

「……おっぱい……」

ビュン

グッ

「……お姉さん……」

ビュン

興奮しちゃって  
カワイイ♡

ドビュン

「凄くイイよ！  
柔らかくて！」

「君達反応がいらあね  
可愛くていらあよ♡」

ビュン

ビュン

ビュン

オラは見ているだけじゃ  
我慢できずオナ○ニーを始めただ

もう一人の背の高い女は  
男達に囲まれていて  
小便をするように次々と  
ザーメンをぶっかけられていた

「うっ…  
出ちやう…」

「いい声だわ♡  
我慢しないでらさのよ  
私に沢山かけて♡」

「はあはあ…」

「うっ  
うっ  
うっ」

「うっ  
うっ  
♡」

おち○ち○が  
いっぱい♡

「うっ  
うっ  
♡」

「うっ  
うっ」

「うっ  
うっ  
♡」

「ズー  
ズー  
♡」

「ふふふ…♡  
しわもなくてつるつるの  
若いおち○ち○に囲まれて  
最高だわ♡」

「ズー  
ズー  
♡」

もう一人の背の高い女は  
男達に囲まれていて  
小便をするように次々と  
ザーメンをぶっかけられていた

…ト

びび

「ふふふ…  
しわもなくってつるつるの  
若いおち○ち○に囲まれて  
最高だわ」

…ト

「…ト  
…ト」

「いい声だわ♡  
我慢しないでらさのよ  
私に沢山かけて♡」

おち○ち○が  
いっぱい♡

「…ト  
…ト」

びび

「…ト  
…ト」

びび

びび

「もう体も使うのも  
疲れちゃったわ」

君達まだ出したいでしょ？

「お姉さん達がいやらしいおマ○コ見せてあげるから  
じっくり見てオカズにしちゃってらわよ」

「らっしゅーらっしゅー」

「ただし触ってもいいけど  
可愛いおち○ち○は入れちゃダメよ」

「ちよつとナミ…」

「はあはあ…  
こうなってるんだ…」

「いいじゃない  
減るもんじゃないし」

「やだちよつと  
そんな広げないで  
恥ずかしい」

「好きにぶっかけちゃって」

女達は隠れているオラの近くに来ていたんで  
至近距離からおマ○コをじっくり見ることができた  
オラは女達が温泉から出るまでサルのようにヌイてやった

「はあ」



「もう体も使うのも  
疲れちゃったわ」

君達まだ出したらでしょ？

お姉さん達がいたらおマ○ロ見せてあげるから  
じっくり見てオカズにしちゃうてららわよ

ららっしゃーら

はあ

「ただし触ってもいいけど  
可愛いおち○ち○は入れちゃダメよ」

「ちょっとナシ」

「いいじゃない  
減るもんじゃないし」

「はあはあ…  
こうなってるだ」

「やだちょっと  
そんな広げないで  
恥ずかしい」

好きにぶっかけちゃって

女達は隠れているオラの近くに来ていたんで  
至近距離からおマ○ロをじっくり見ることができた  
オラは女達が温泉から出るまでサルのようにヌイてやった

僕の家は宿を経営している  
最近噂の女海賊が連泊しているんだ  
昼出掛けて夜になると若い男連れて  
部屋に戻ってくる

「あのねーちゃん  
毎日若いのとやりまくってるな」

「オレもあの体  
好き放題したいよ  
○○

掃除の時間だぞ

「うん  
わかってる」

「ジュポ」

「ちゃっ」

「ジュポ」

「ん」

「うちはそういう宿じゃないのに  
でも金払いがいいから  
泊まらせているんだけど」

「僕は家の手伝いをしているんだ  
掃除する部屋の隣はあの女海賊の部屋だった  
あ……  
ドアが開いている……」

「プライベートだから  
見てはいけないんだけど  
つい見てしまった……」

「ん」

「くぱあ」

「んん」

「ドゥー……」

「覗き」



丁度S○Xが終わった所だった

「はあはあ

沢山出たよ

ほらお姉さん飲んで」

若い男はイッた後すぐさま強引に女の口にねじ込んでザ○メンを飲ませていた

ジュポ♡

ちゃっ♡

ジュポ♡

ん♡

「はあ 何度やってもららら」

ん♡

ん♡

ドゥドゥ♡

くぱあ♡

ん♡

女は嫌がっていないみたいだった  
男のほうはS○Xの余韻で  
しばらく女の口にチ○コを  
突っ込んだままうごかなかったが

僕が覗いているのがわかってるのか  
精液で溢れているマ○コを広げ  
ジェスチャーして僕を誘っているようだった



# 清掃

ふふふ

シャワーを浴びてバスタオル姿のお姉さんが出てきた

僕はお姉さんの部屋をとりあえず後回しにして空いている部屋の掃除を始めた

しばらくしてまたお姉さんの部屋に行き掃除の有無を聞きに行くと

「でも掃除が…」

「遅かったわね。キミ覗いていたでしょ？お姉さんとイイことしてみなす。」

「イイからイイから」

ズビズ

ズビズ



# 清掃

事が済んでお姉さんは  
またシャワー浴びて部屋に戻ってきたんだけど  
パスタオル姿を見ていたら  
ムラムラしてきて押し倒してしまった

「あいつまだ掃除しているのか？  
トロイやつだ」

「あのおねーちゃんど  
やってんじやねーの？」  
「そんなバカな  
若い男なら誰でも食っちゃまうんか？」

「もう  
せつかく汗流したのだ」

「はあはあ…  
気持ちイイ…」

ズ  
ズ  
ズ

ズ  
ズ  
ズ



# 清掃

お姉さん♡

「お姉さん、お疲れさー。」

「びしょびしょ。」

「...。」

「自分だけ満足して終わり？」

「びしょびしょ。」

「びしょびしょ。」

「お姉さん。」

「その気にさせたんだから  
今度は下のお口にも頂戴ね♡」

「びしょびしょ。」

この後仕事のことや  
父さんに怒られたけど  
お姉さんとSOXできたんでラッキーだった

終

懐が少し寂しくなったので  
ここらで自慢の胸を使って  
少し稼ぐことにしたの  
もちろんロビンにも手伝ってもらったわ

酒場で隣に座ってたお兄さんに  
「有料でパイズリしてあげよっか？」  
って言うてみたら

近くのおじさん達も聞いてたみたいで  
男達が結構集まったわ

ほんと男ってちよろい♡

「じゃあ部屋で待ってるから  
一人ずつ来てね♡」



「あらそらうっ？  
ゆっくりでもらいから  
パイズリを味わってね」

「はあはあ  
おじさんが動くから  
ロビンちゃんはチ○コを挟んでいるだけでいいよ」

ズン♡

「ああ！  
ナミちゃんダメだって！」

ズン♡

ズン♡



「あははは  
おじさん  
気持ちいいよ」



ズン♡

ズン♡

「さっさとイっちゃんさらいよ」

「早く終わるならいいじゃない♡  
一回出したら終わりだからね  
もう一回抜きたいならまたお金払ってよ」

「そっそんなさっ！」

「ちよっ・ちよっど…  
ナミちゃん！  
せっかく俺の番になったのに  
そんなに乱暴に擦ったら  
すぐイっちゃんさうよ！」

ズン♡



「あん  
勢いよく飛んだわね  
ハイおしまい  
次の人〜」

「え！  
待ってよナミちゃん！  
少し余韻に浸らせて〜」

「ほかにも待っているお客さんが  
いるのよ」

「わ・わかった  
もう一回払うから  
もっとゆっくりやって〜くれ〜」

「毎度〜」

「ふふふ  
濃いのが沢山田たわね」

「ロビンちゃんのおっぱいは最高だよ」

「あうっ…  
そんなにされたら  
やらないわけじゃないかw」

「ふふふ」

「パイズリするだけで意外に稼ぐことができたわ  
お金が少なくなったら  
またこれで稼ぐかな？」

終

島に来てみると噂の女海賊が  
観光案内しろと  
島一の物知りのわしに依頼が来たのじゃ

どうせ島の宝を  
いただこうとするに違いない

当日会ってみると  
なかなかナイスボディのねーちゃんだった

一度は断ったのじゃが  
イイ女だから受けなきゃもったいないと  
説得されしぶしぶ受けることになった

島は広いから一日じゃ周れんぞ  
そんな格好と荷物で大丈夫かの？

これしかないもの  
お爺さん色々持ってきてみるみたいだし  
お借りしますわ

TENTOは一つしかないぞい

じゃあ一緒に寝ましようか？

そ…そうか  
 じゃあ行こうかの

観光案内



はあ

はあ

はあ

んん

んん

ジュポ

ジュポ

ああ

あ

ペチ

ドッ

んふ

ジュポ

あら？

Hなおじいちゃんね

あう

ズン

ん

ジュポ

ジュポ

ドッ

この島は夜になると  
結構冷える

わし達はテントの中で  
体を温めあった

「おじいちゃん  
お年の割には元気じゃない」

「おぬしのでかケツを見とったら  
久しぶりにやりたくなってのう」

「あらうれしいわ」

「外は寒いから頑張らんとな」

「たっぷりしましょ」

わしは久しぶりに  
女を抱いた

女の体は素晴らしかった  
もう年だから  
一回抜いただけで満足すると思っ

女のアソコは中々の名器で  
果てもわしのチ○コを吸い付くように  
離さない感じだった  
わしは何度も女の中で果てた

気づいた時には  
もう朝になっとった

島の案内はまだ始まったばかり  
しばらくはこの体を楽しむことがわいの

終

はあ♡

はあ♡

んっ♡

んっ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

ドビュッ

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

ん♡

島に来てから少し肉がついてきたので  
どこか軽く運動する所がないか  
街中ナミと見てまわっていると  
ジムらしき店を見つけたの

ストレッチ

ムチ♡

ムチ♡

受付の人は  
今トレーニングウェアがなくて  
水着しかないって言ってきたわ

ムチ♡

ムチ♡

仕方ないから水着を着ることに  
したんだけど紐水着なの  
どう見ても私達を見て  
選んだものなのね



ん♡

早速軽くストレッチしていると私達をもっと近くで見ようと股間を膨らませて男達は近づいてきたわ

むあ

「軽い運動と思ってたけど結構きついわね…♡」

むあ

見られるのもなかなか興奮するわね♡

「あ…♡…♡」  
「汗がたまってるわね♡」

むあ

「そこのお兄さんせっかくだから手伝って〜れな〜♡」

私達はお兄さん達と  
一緒に汗を流したわ♡

みんな男らしくて  
激しいのが好きなの♡

アソコも大きい人ばかりで  
乱暴に突くから壊れるかと思っちゃった♡

ナミなんて  
男をイカせるのが得意なのに  
この時はかりは逆に  
何度もイカされてたわ

あ♡

い♡

あふ♡

い♡

い♡

んあ♡

はん♡

い♡

ぶ♡

ぶ♡

ぶ♡

ぶ♡

らめえ♡

ぶ♡

私達はお兄さん達と  
一緒に汗を流したわ♡

みんな男らしくて  
激しいのが好きなの♡

はー♡

ビーン

ビーン

はー♡

はー♡

アソコも大きい人ばかりで  
乱暴に突くから壊れるかと思っちゃったの

ビーン

ビーン

ビーン

じいじい  
じいじい  
じいじい

ビーン

ビーン

ああ…♡

ナミなんて  
男をイカせるのが得意なのに  
この時はかりは逆に  
何度もイカされてたわ

グググ…

ググ

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ん♡

ふう♡

はあ♡

ん♡

「汗かいたわ♡」

はあ♡

ト♡ト♡

ト♡ト♡

終わった後はもう体中男汁だらけ♡  
すぐ元気になるしみんなす♡量出すんだもの♡

「ロビン  
いい場所見つけたわね♡  
ここなら毎日通っても大丈夫♡」

「毎日の通いっつらなわね♡」

終



数か月経っても  
ナミとロビンは観光から帰ってこない…  
この島にいと情報があり  
やっと着いたわけだが…

「おまえら  
その腹どうしたんだよ?!」

「あら?!  
ウソップじゃなら」

「遊んでやっし」

「誰の子なんだっ!」

「若い子達なんだけどね、多すぎてわかんないわw」



「それだけはダメ私達だけの秘密よ」

「けどど...」

「ど...ど...うすんだ  
とりあえずルフイ達に相談を...」

「仕方ないわね  
あの宿で話の続きをしましょ」

「あらあら  
うふふ...」



「おまえら  
やめろっつてー」

「ウソツプのおち○ぼ  
久しぶりだわ♡  
早漏なんだからって  
すぐイっっちゃダメよ♡」

「嫌なら抵抗すればいいのに♡  
長旅で貯まっているんでしょ？  
こんなになっちゃって♡  
タ○タ○の中  
空っぽにしてあげる♡」

「ナミずるいわよ  
一人でこっそりと  
こんな美味しそうな  
味わっていたなんて♡」

んんん♡

ぽろ♡

ぽろ♡

ん♡

「ロ○ン○もやめろっつてー」

「いいじゃない  
黙っていればいいのよ♡」

「あん♡  
先に食べちゃうの？  
ずるいわ♡」

「二人ともいい加減に…  
うわあああ…!!」

っろ♡

おんん

びっ

べっ♡

びっ

結構貯まってたじゃない♡

「ウソツプ早ら〜♡」

「文句言ってる割にアソコは正直ね♡」

「おお〜♡」

んん♡

ド...

「ばあ〜濃いわ〜♡  
こんな量飲みきれないわ♡  
定期的に抜いてないの？」

すい♡すい♡♡

「今度から私も夜のお相手してもらおうかしら  
ウソツプのおち♡ポ入れてほしいわ♡」

びっぴん♡

んん♡

ぐいぐい♡

ぐいぐい♡

く...  
ロビンやめろっ...  
『...』

『今さら何言ってるのよ  
構わずやっちゃって』

すごい♡

ああ♡

『ええ♡』

『う...  
くそ!  
そんなにヤリてーなら  
おまえら容赦しねえからな!』

はあ♡

はあ♡

はあ♡

『あはあ♡  
やだすごい♡  
いいわウソツプ♡』

あはあ♡

『もっとお♡』



「二人を見てたら私もしたくなっちゃうじゃない♡ あら丁度いいのがあるわ♡」

「おい！ 鼻を入れる気が！」

「流石に入れないわよ♡ 擦りつけるだけ あん♡」

「はあ♡ いいわ♡」

「はあ♡」

「ああ♡」

「いいじゃない あんたはロビンとやってなから」

「はあ♡」

「すごい♡」

「おふ！ おいナミ！ オレの鼻はチ○コじゃねえぞ！」

「あああああ♡♡♡♡♡」

「あはあ♡」

オレはナミ達の妊娠していることを強引に口留めさせられた…

終